思春期の性別同一性の自覚と個人志向性・社会志向性に関する研究

村　松　十　和[1]

Abstract

The scope of this study is to reveal the correlation between adolescents' gender identity and their individual/social orientations, as well as the correlation between the individual and social orientations of adolescents and those of their parents. The study also aims to gain fundamental understandings that are necessary for providing counseling and guidance. The subjects of the survey, which was conducted by the self-administered questionnaire method, are consented junior high school students (107 boys and 126 girls), senior high school students (74 boys and 103 girls), and their parents (86 fathers and 93 mothers).

[Result/Discussion] (1) Junior high school boys showed tendencies towards egoism and sublime isolation, and junior high school girls tended to show immaturity and a lack of enthusiasm. (2) A positive correlation was observed in individual and social orientations of boys and girls in junior and senior high school, suggesting a coexisting rise in both orientations. (3) The group of high school students who ranked high in individual orientation indicated positive correlation with their same-gender parents' individual orientation, suggesting that it can become the foundation of adolescents' gaining their identities. (4) The orientations of junior and senior high school students correlated positively with their self-awareness of gender identity; the high-ranking group of junior high school students' awareness of gender identity also ranked high in both orientations, and many of their counterparts in low-ranking group ranked low in both orientations. These findings suggest the link between the self-awareness of gender identity and individual and social orientations. Therefore, encouraging the awareness of gender identity becomes the foundation for coexistingly raising both orientations and establishing identity. Furthermore, the involvement of the same-gender parents holds the key to gaining identity.

Key Words: individual orientation, social orientation, self-awareness of gender identity, adolescent, parent-child relationship

I. はじめに

近年の自殺，いじめ，犯罪などの社会現象や十代の人工妊娠中絶・性行為感染症の増加や，痩せと思われる女性の増加を考えると，若者には，情報化，国際化，多様化など複雑化する社会に対処できる社会性が必ずしも育っているとは考えられない．

思春期は，他人の目によって作りあげられつつある「もう一人の自分」の存在に気づくが，「意識する自分」との間に新しい調和が求められるので，「もう一人の自分」が自己を制約し規制するようになり，「あるべき自分」が構築される[1]．一方，身体発育では性的成熟という質的変化があるが，社会は彼らに社会が期待する男性－女性という性的次元にそった行動様式や態度などを求めてくる．このため彼らは，性情報の氾濫や性の価値が多様化する社会の中で，社会が規定する男性－女性という性的次元に対して，男（女）として多くの体験の蓄積と試行錯誤を繰り返しながら―社会

1　三重大学医学部看護学科

的規範にのって行動を選択し――生涯を通じて絶えず変化，発達してくる[2]．つまり，思春期からの自我は，身体的・性的成長，心理・精神的発達，対人関係・社会化等を統合し調整しなければならないのである[3]．

伊藤[4]は，青年期の人格形成過程では人間の発達である「社会的期待や社会規範に上手く適応していく過程としての社会化（社会志向性）」や「自己のあり方を最大限に発揮するような自己実現に近いものとしての個性化（個人志向性）」の2つの過程が相互補完的に作用するものとして捉えるべきと述べている．思春期の身体の自己と性別同一性の自覚の研究[5]によれば，男子は身体に満足することが男性的・父性的な男性性の自覚に影響力をもち，女子は①性的欲求が女性的・母性的な女性性の自覚に，②身体に満足することが女性的な女性性の自覚に，それぞれ影響力をもっていた．そして，身体満足度は，①男子は性的欲望の抑圧と第二次性徴としての男らしい体つきに満足することが，②女子は第二次性徴出現に対する両面価値感情が，それぞれ影響していた．このように考えていくと，性的成熟を遂げる身体の自己は，葛藤や矛盾を抱えていても，社会が規定する男性－女性という性的次元に関係させながら，自己像を明確化して社会に適応していかなければならないような気がする．つまり，彼らが社会に適応するには，他者との調和や社会的役割が重視されるため[6]，自己を客観視して自己探求をしていくときには，性別同一性の自覚が関係してくると思われる．

たとえば，避妊行動は，避妊法に対する態度，自己効力感，性役割態度や男女間の力関係[7]が影響しているため，その教育では性や避妊に関する知識だけではなく，性別をふまえた人間としての生き方（行動や考え方）も盛り込む必要がある．しかし，このような性教育の基礎的知見を得るためには，社会生活に適応していく社会化の過程や独自のパーソナリティを主体的に形成していく個人化の過程の双方が性同一性の自覚とどう関係するのか明らかにする必要がある．さらに，思春期の思いやりの気持ちを形成するためには良好な親子関係が重要である[8]との考えに立てば，核家族化や都市化，少子化が進んだ社会においては，より両親の影響を受けやすいと考えるので，彼らの個人化の過程と社会化の過程が両親のそれとどのような関係にあるのかを明らかにする必要があると考える．しかし，これらの関連を扱った研究は見当たらない．

そこで，本研究は，思春期の若者の性別同一性の自覚と個人志向性・社会志向性との関係がどのような関係にあるのか，若者とその親の個人志向性と社会志向性はどのような関係にあるのか明らかにし，性に関する指導に必要な基礎的知見を得ることである．

Ⅱ．研究方法

1．調査対象

中学生（男子：107人，回収率67%，女子：126人，回収率78%），高校生（男子：74人，回収率47%，女子：103人，回収率71%）とその両親（父：86人，回収率36%，母：93人，回収率39%）である．

2．調査時期：平成8年7月～9月

3．調査方法

中学生への研究の説明，調査用紙の配布・回収は，授業の時，教師によって行われた．高校生とその両親は，郵送と個別訪問によって研究の説明と調査依頼をした．なお，高校生と両親が記入した調査用紙は，別々の封筒に入れ封をしてもらい，最終的に大きな封筒に入れ，郵送及び個別訪問によって回収した．

4．倫理的配慮

教師に本研究の趣旨と目的を説明し了解を得た後，中学生には教師によって研究の目的と説明が行われた．高校生とその両親には，研究の目的と説明が記載された文書を調査用紙と共に同封した．なお，説明文には研究への参加が自由意志であること，プライバシーは保護すること，個人情報は匿名化することを記載し，研究への同意は調査用紙の回収をもって同意とみなした．

5．調査内容

1）性別同一性の自覚

性別同一性の自覚[5]は，山口[9]の男性性・女性性の2側面を参考に因子分析の結果得られたもので，男子10項目，女子9項目から構成される．質問構造は男子が「男性的（α＝.779），父性的（α＝.731）」男性性の2つ，女子は「女性的（α＝.729），母性的（α＝.613）」女性性の2つからなり，内的整合性が確かめられている．性別同一性の自覚は，「かなりそう思う5点～ほとんどそう思わない1点」の5段階評定をしてもらい，中学生と高校生に実施した．

2）個人志向性・社会志向性

個人志向性は自分自身への内的基準への志向性で自己実現に近い特性を表し，社会志向性は他者あるいは社会規範への志向性で社会の中でうまく適応していく在り方を意味し[10]，伊藤[4]の個人志向性・社会志向性の尺度は，人間の発達と適応を測定する指標になり得ることが検証され，2つの志向性の共存的高まりは，自己のあらゆる側面を認めうる多面的な基準の獲得につながるとされる[11]．そこで，中学生，高校生とその

両親人間の発達と適応を測定するためこの両志向性を用い，「かなりそう思う 5 点～ほとんどそう思わない 1 点」の 5 段階評定をしてもらった．

3）その他

中学生・高校生のデモグラフィックなデータとして，身長と体重，第二次性徴の出現や性的欲求の有無を尋ねた．

6. 分析方法

平均値の差の検定は，t 検定，Mann-Whitney の検定を，相関は Spearman 検定，度数データについては Pearson の χ^2 検定，一元配置分散分析の後，Levens 検定の結果，多重比較は bonferroni の検定を行った．検定は両側検定とし，有意水準は 5%とした．P 値が 0.001 より小さい場合は P<0.01 とした．なお統計ソフトは SPSS（11.0J）を用いた．

Ⅲ. 結　果

1. 対象の属性（表 1）

身体発育では，身長は中学生と高校生では男子約 12cm 女子約 4cm の差があり，男女とも高校生が高く，BMI 値も高校生が大きい．

男子の第二次性徴は，中学生では腋毛・射精の出現は 3 割以下であるが，髭や性毛の出現は半数以上,高校生は全てが 9 割以上の出現であった．女子の乳房の発育は，中学生も高校生も差がないが，その他の出現は，中学生は 80%未満，高校生は 95%以上で高かった．

2. 性別同一性の自覚（表 2）

中学生・高校生で性別同一性の自覚に差があるか検定した結果，男子は両方の男性性に差はないが，女子は,女性的な女性性が高校生に高かった（p<.01）．下位項目では，女性的な女性性は「かわいい，色っぽさ」の項目，母性的な女性性は「必要な時に他人のためになる」の項目において，高校生の方が高かった（p<.01～.05）．

3. 志向性の平均

中学生と高校生，父親と母親の志向性得点に差があるか検定した．

表 1　対象の背景

男　　子	中学生　M（SD）		高校生　M（SD）	
身長***	156.5（8.7）		168.8（6.3）	
BMI***	18.5（2.1）		20.8（2.9）	
	あり	なし	あり	なし
声変わりの出現***	42（39.3%）	65（60.7%）	53（ 94.6%）	3（ 5.4%）
腋毛の出現***	27（25.2%）	80（74.8%）	54（ 96.4%）	2（ 3.6%）
精液の出現***	23（21.5%）	84（78.5%）	51（ 91.1%）	5（ 8.9%）
髭の出現***	56（52.3%）	51（47.7%）	51（ 91.1%）	5（ 8.9%）
性毛の出現***	62（57.9%）	45（42.1%）	56（100.0%）	
性欲	はい	いいえ	はい	いいえ
異性友達が欲しい***	62（57.9%）	48（38.3%）	56（89.3%）	6（10.7%）
キスがしたい***	50（46.7%）	53（49.5%）	46（82.1%）	10（17.9%）
抱きたい***	54（50.5%）	49（45.8%）	44（78.6%）	12（21.4%）
女　　子	**中学生　M（SD）**		**高校生　M（SD）**	
身長***	153.3（5.7）		157.6（4.7）	
BMI*	19.3（2.4）		20.0（0.9）	
第二次性徴出現***	あり	なし	あり	なし
腋毛の出現***	91（72.8%）	34（27.2%）	61（98.4%）	1（ 1.6%）
性毛の出現***	94（75.2%）	31（24.8%）	61（98.4%）	1（ 1.6%）
月経の出現***	98（78.4%）	27（21.6%）	61（98.4%）	1（ 1.6%）
乳房の出現 ns	112（89.6%）	13（10.4%）	59（94.9%）	3（ 5.1%）
性　　欲	はい	いいえ	はい	いいえ
異性友達が欲しい**	84（67.2%）	40（32.0%）	53（86.9%）	8（13.1%）
キスがしたい*	58（46.4%）	66（52.8%）	38（59.4%）	23（35.9%）
抱かれたい*	61（48.8%）	63（50.4%）	40（62.5%）	21（32.8%）

身長・BMI：t 検定，その他：Pearson の χ^2 乗
***p<.001，**p<.01，*p<.05

表 2　性別同一性の自覚

平均（SD）

項　目　内　容	中学	高校生	p 値
男性的	3.01　(0.7)	2.93　(0.6)	
自分には他人を威圧して人を従わせる威力がある	2.83　(1.0)	2.54　(1.0)	
自分には勇気がある	3.02　(1.0)	2.82　(0.9)	
自分には物事を成し遂げるのに必要な心や体のエネルギーがある	3.10　(0.9)	3.29　(1.1)	
自分には力強さがある	2.99　(1.0)	3.09　(1.0)	
自分には闘争心がある	3.42　(1.1)	3.30　(1.1)	
父性的	3.07　(0.8)	3.01　(0.7)	
自分には堂々としていて気持ちが引き締まるような重々しい感じがある	2.76　(0.9)	2.86　(1.0)	
自分には家族を助けたり，守ったりすることができる	3.38　(0.9)	3.25　(1.0)	
自分には教えてあげるなど人を指導していくタイプである	2.93　(1.1)	2.59　(1.1)	
自分には筋道立てて，物事を考える方である	3.16　(0.9)	3.04　(0.9)	
女性的	2.48　(0.8)	2.78　(0.7)	＊＊
自分はかわいい感じだと思う	2.12　(1.1)	2.71　(0.9)	
自分には色っぽさがある	2.03　(1.0)	2.15　(0.9)	＊＊
自分はおしゃれである	2.90　(1.1)	2.90　(1.0)	＊＊
自分は素直だと感じる	2.87　(1.1)	3.15　(1.1)	
母性的	3.44　(0.5)	3.49　(0.5)	
自分は適度に柔かくふっくらしている	3.22　(0.0)	3.43　(0.9)	
自分は喜びや悲しみなどによって心が動きやすい方である	4.11　(0.9)	4.09　(1.0)	
自分は人に対して包んであげる感じだと思う	3.12　(0.8)	3.03　(0.8)	
自分は必要な時には，他人のためになろうとするほうである	3.61　(0.8)	3.85　(0.7)	＊
自分はあたたかであると感じる	3.12　(0.9)	3.04　(0.8)	

Mann-Whitney 検定　**p<.01，*p<.05

1）個人志向性（表 3－1）

男子の志向性の平均得点は，中学生と高校生で差がないが，下位項目では，「＃何をやりたいか」に差があり，中学生が高かった（p<.05）．女子の志向性の平均得点は，高校生が高かった（p<.05）．下位項目では，「心に正直，＃自分で決定，自分の信念，正しいことを主張」に差があり，高校生が高かった（p<.05～.01）．両親の平均得点は差がないが，下位項目で差があり，「心に正直，自分が満足，自分の信念，正しいことを主張，自分の個性」は父親が高かった（p<.05～.01）．

2）社会志向性（表 3－2）

男子は，中学生と高校生の平均得点には差がないが，下位項目では差があり，「役立つ人間，尊敬される人間」は中学生が高く，「周りとの調和，恥じないように」は高校生が高かった（p<.05）．女子も中学生と高校生の平均得点には差がないが，下位項目では差があり，「人に誠実，周りとの調和」は高校生が高かった（p<.01～.001）．両親も平均得点には差がないが，下位項目では差があり，「恥じないように」は母親が高かった（p<.05）．

4. 高校生の志向性からみた両親の志向性（表 4）

高校生と両親の関係をみるため，両親の志向性得点を自分の子より「高い，同じ，低い」に分類し，その分布をみた．その結果，個人志向性得点で子より「高い」は，父親が 7 割強，母親が 5 割弱，社会志向性得点で子より「高い」は，父親が 6 割強，母親が 7 割強であった．

5. 高校生と両親の志向性の関係

両親と高校生の志向性得点の関係を見るため，平均の差の検定を行った．

1）個人志向性（表 5－1）

平均得点は，男子は父親より低いが，女子は両親より低かった．

下位項目では，男子は「心に正直，＃生きるべき道，自分の信念，＃何をやりたか」は両親より低く（p<.001），「正しいことを主張」は父親より低かった（p<.01）．女子は，「＃生きるべき道」は，両親より低く（p<.01），「心に正直，＃自分で決定，自分の信念，正しいことを主張，＃何をやりたいか」は，父親より低く（p<.05～.001），「自分の個性」は母親より高かった（p<.05）．

2）社会志向性（表 5－2）

平均得点は，男女とも両親より低かった．

下位項目では，男子は「尊敬される人間」を除いた全ての項目が，両親より低かった（p<.01～.001）．女

表 3　志向性の平均点

1. 個人志向性　　＃反転項目　　平均±SD

	男子			女子			高校生の両親		
	中学生	高校生	p 値	中学生	高校生	p 値	父親	母親	p 値
個人志向性平均得点	3.4±0.5	3.3±0.4		3.2±0.9	3.4±0.6	*	3.8±0.6	3.5±0.6	
自分の心に正直に生きている（心に正直）	3.2±1.0	3.4±0.9		3.2±0.9	3.7±1.0	＊＊	4.4±0.9	4.0±0.9	＊
＃小さな事も自分ひとりではきめられない（自分で決定）	3.4±1.1	3.4±1.1		2.9±1.0	3.3±1.0	＊＊	3.6±1.1	3.3±1.1	
＃自分の生きるべき道がみつからない（生きるべき道）	3.4±1.1	3.0±1.1		3.2±1.2	3.2±1.2		4.0±1.0	3.7±1.0	
自分が満足していれば人が何を言おうと気にならない（自分が満足）	3.0±1.0	3.1±1.0		2.7±1.0	2.9±1.1		3.1±1.0	2.8±1.1	＊
自分の信念に基づき生きている（自分の信念）	3.3±1.0	3.3±0.9		3.3±0.7	3.6±0.5	＊＊	4.1±0.9	3.7±0.9	＊
周りと反対でも自分が正しいと思うことは主張できる（正しいことを主張）	3.5±1.0	3.4±0.8		3.1±1.0	3.4±1.0	＊	3.9±0.9	3.4±0.8	＊＊
自分の個性を生かそうと努めている（自分の個性）	3.6±1.0	3.5±1.0		3.5±0.9	3.8±0.9		3.7±1.0	3.3±0.9	＊
＃自分が本当に何をやりたいかわからない（何をやりたいか）	3.5±1.1	3.1±1.2	＊	3.3±1.0	3.2±1.3		3.9±1.1	3.6±1.0	

2. 社会志向性

	男子			女子			高校生の両親		
	中学生	高校生	p 値	中学生	高校生	p 値	父親	母親	p 値
社会志向性平均得点	3.4±0.8	3.5±0.7		3.6±0.5	3.6±0.6		4.1±0.6	4.1±0.6	
人に対して，誠実であるように心がけている（人に誠実）	3.1±0.8	3.3±0.9		3.3±0.8	3.8±0.8	＊＊＊	4.3±0.9	4.4±0.7	
社会（周りの人）の中で自分が果たすべき役割がある（果たすべき役割）	3.2±1.1	3.2±0.9		3.3±0.9	3.4±1.0		4.2±0.9	4.0±0.9	
人とのつながりを大切にしている（人とのつながり）	3.7±1.1	3.8±0.9		4.0±0.9	4.1±1.0		4.5±0.7	4.5±0.6	
社会（周りの人）のために役立つ人間になりたい（役立つ人間）	3.9±1.2	3.4±1.2	＊	4.2±0.8	4.1±1.0		4.1±0.9	4.1±0.9	
社会のルールに従って生きていると思う（社会のルール）	3.3±0.9	3.3±1.0		3.2±0.8	3.3±0.9		4.2±0.9	4.3±0.8	
周りとの調和を重んじている（周りとの調和）	3.2±0.9	3.6±0.8	＊	3.1±0.8	3.5±0.9	＊＊	4.1±1.0	4.2±0.8	
他人に恥ずかしくないように生きている（恥じないように）	3.2±1.0	3.5±1.0	＊	3.2±0.9	3.4±0.9		3.9±1.0	4.3±0.8	＊
他人の気持ちになることができる（他人の気持ち）	3.2±1.1	3.4±1.1		3.5±0.9	3.4±0.9		3.9±0.8	4.1±0.7	
他の人から尊敬される人間になりたい（尊敬される人間）	4.0±1.2	3.5±1.1	＊	4.1±0.9	3.9±1.0		3.6±1.1	3.2±1.0	

Mann-Whitney 検定　***p<.001，**p<.01，*p<.05

表 4　高校生の志向性からみた両親の志向性

人（%）

両親の志向性		個人志向性	社会志向性
父親	子より高い	54（71.5）	58（62.4）
	子と同じ	4（ 5.3）	3（ 3.5）
	子より低い	18（23.7）	25（29.1）
母親	子より高い	45（48.9）	66（71.7）
	子と同じ	14（15.2）	9（ 9.8）
	子より低い	33（35.9）	17（18.5）

子は，「役立つ人間」は，両親との差がないが，「尊敬される人間」は両親より高く（p<.05～.001），その他の項目は両親より全て低かった（p<.01～.001）．

6. 個人志向性・社会志向性の相関（表 6）

個人志向性・社会志向性の相関をみると，中学生と高校生の男女，父親，母親の全てが正相関していた．

7. 子どもの志向性分類からみた両親の志向性との相関（表 7）

高校生の各志向性を「上位（平均以上）と下位（平均以下）」に分類して，高校生と両親の志向性の相関を行った結果，個人志向性の上位群は，男子は父親，女子は母親と正相関した．

8. 個人・社会志向性と性別同一性の自覚（表 8，表 9）

両志向性と性別同一性の自覚との関係をみるため，χ^2検定と相関を行った．その結果，男女とも両志向性と両方の男（女）性性が正相関したが（p<.001），中学生と高校生にわけると，男子は中学生の両志向性が両方の男性性が正相関（p<.001），高校生の個人志向性が男性的な男性性，社会志向性が両方の男性性に正相関した（p<.05～.01）．女子では中学生の両志向性が両方の女性性に正相関（p<.001），高校生の個人志向性が母性的な女性性，社会志向性は両方の女性性に正相関していた（p<.05～.001）（表 8）．

次に，志向性と性別同一性の自覚の各因子の平均値を求め，平均以上（以下，上位），平均以下（以下，下位）に分け，その後，志向性は両志向性の上位，個人志向性の上位と社会志向性の下位，個人志向性の下位と社会志向性の上位，両志向性の下位の 4 つに分類し，性別同一性の自覚の各因子は上位と下位に 2 つ分類した．両志向性が高い者は，性別同一性の自覚も高

表 5　高校生と両親の志向性の関係

1．個人志向性　　＃反転項目

※個人志向性の平均の差の検定（多重比較：Bonferroni）

→***p<.001：高校男子〈父親，高校女子〈父親・母親

下位項目	高校男子 n＝56		高校女子 n＝62	
	父 平均の差	母 平均の差	父 平均の差	母 平均の差
心に正直	父＞子***	母＞子***	父＞子**	ns
＃自分で決定	ns	ns	父＞子*	ns
＃生きるべき道	父＞子***	母＞子***	父＞子***	母＞子**
自分が満足	ns	ns	ns	ns
自分の信念	父＞子***	母＞子*	父＞子**	ns
正しいことを主張	父＞子**	ns	父＞子*	ns
自分の個性	ns	ns	ns	母＜子*
＃何をやりたいか	父＞子***	母＞子*	父＞子**	ns

2．社会志向性

※社会志向性の平均の検定（多重比較：Bonferroni）

→***p<.001：高校男子・高校女子〈父親・母親

項　　目	男子		女子	
	父親 平均の差	母親 平均の差	父親 平均の差	母親 平均の差
人に誠実	父＞子***	母＞子***	父＞子**	母＞子***
果たすべき役割	父＞子***	母＞子***	父＞子***	母＞子***
人とのつながり	父＞子***	母＞子***	父＞子**	母＞子**
役立つ人間	父＞子**	母＞子**	ns	ns
社会のルール	父＞子***	母＞子***	父＞子***	母＞子***
周りとの調和	父＞子**	母＞子***	父＞子***	母＞子***
恥じないように	父＞子**	母＞子***	父＞子***	母＞子***
他人の気持ち	父＞子**	母＞子***	父＞子***	母＞子***
尊敬される人間	ns	ns	父＜子*	母＜子***

平均の差：Mann-Whitney 検定　***p<.001，**p<.01，*p<.05

表 6　個人志向性・社会志向性の相関

男　子		女　子		父　親	母　親
中学生	高校生	中学生	高校生		
.505***	.346**	.352***	.300*	.561***	.530***

Spearman　***p<.001，**p<.01，*p<.05

表 7　子どもの志向性分類からみた両親の志向性との相関

		父　親			母　親		
		全　体	男　子	女　子	全　体	男　子	女　子
個人志向性	上　位	.152	.491*	−.021	.366	.299	.468*
	下　位	.069	.062	.173	.001	.131	−.227
社会志向性	上　位	.152	.177	−.073	.296	.267	.312
	下　位	−.071	−.133	.222	.055	−.112	.023

Spearman　*p<.05

表 8　志向性と性別同一性の自覚との相関

	個人志向性			社会志向性		
	全　体	中学生	高校生	全　体	中学生	高校生
男 性 性	.529***	.610***	.363**	.435***	.473***	.297*
父 性 性	.371***	.429***	.230	.601***	.672***	.441**
女 性 性	.376***	.371***	.287*	.438***	.481***	.397**
母 性 性	.205**	.201***	.210	.625***	.670***	.565**

Spearman　***p<.001，**p<.01，*p<.05

表 9　志向性と性別同一性の自覚

上段：全体，中段：中学生，下段：高校生　人数（%）

性同一性の自覚 志向性	男性性 全体*** 中学生** 高校生 ns		父性性 全体** 中学生** 高校生 ns		女性性 全体*** 中学生*** 高校生 ns		母性性 全体*** 中学生*** 高校生 ns	
	平均以上	平均以下	平均以上	平均以下	平均以上	平均以下	平均以上	平均以下
個人上，社会上	42（42.4）	6（10.2）	38（39.2）	10（16.7）	55（49.1）	11（15.5）	55（47.1）	11（16.4）
個人上，社会下	10（10.1）	12（20.3）	10（10.3）	12（20.0）	14（12.5）	12（16.9）	10（ 8.6）	16（23.9）
個人下，社会上	17（17.2）	13（22.0）	22（22.7）	8（13.3）	29（25.9）	19（26.8）	36（31.0）	12（17.9）
個人下，社会下	30（30.3）	28（47.5）	27（27.8）	30（50.0）	14（12.5）	12（16.1）	15（12.9）	28（41.8）
個人上，社会上	31（47.0）	3（ 8.3）	29（ 4.6）	5（13.2）	34（50.0）	8（15.0）	37（47.4）	5（11.6）
個人上，社会下	6（ 9.1）	5（13.9）	5（ 7.9）	6（15.8）	5（ 7.4）	9（17.0）	4（ 5.1）	10（23.3）
個人下，社会上	11（16.7）	10（27.8）	14（22.2）	7（18.4）	22（32.4）	13（24.5）	28（35.9）	7（16.3）
個人下，社会下	18（27.3）	18（50.0）	15（23.5）	20（52.6）	7（10.3）	28（43.4）	9（11.5）	21（48.8）
個人上，社会上	11（33.3）	3（13.0）	9（26.5）	5（22.7）	21（47.7）	3（16.7）	18（47.4）	6（25.0）
個人上，社会下	4（12.1）	7（30.4）	5（14.7）	6（27.3）	9（20.5）	3（16.7）	6（15.8）	6（25.0）
個人下，社会上	6（18.2）	3（13.0）	8（23.5）	1（ 4.5）	7（15.9）	6（33.3）	8（21.1）	5（20.8）
個人下，社会下	12（36.4）	10（43.5）	12（35.3）	10（45.5）	7（15.9）	6（33.3）	6（15.8）	7（29.2）

Pearson の χ^2 乗　***p<.001，**p<.01，*p<.05

い者が多いかをみるため，χ^2 検定を行なった．その結果，全体では男女とも両方の男（女）性性の上位群は両志向性も上位群が多く，両方の男（女）性性の下位群は両志向性も下位群が多かった（p<.01～.001）．しかし，中学生と高校生でわけると，男女とも中学生はこの関係がみられたが（p<.01～.001），高校生は男女とも志向性は性別同一性の自覚と関係がなかった（表 9）．

V．考　察

1．性的成熟

脂肪組織の増加は，血中に分泌されるテストステロンだけを反映するが，第二次性徴出現数の増加や身長の発育と停止（成人の体型）にはテストステロン以外の物質の関与がある[12]．高校生になると体格は良くなるが，男子の身体発育は女子より遅く，第二次性徴の出現も男子より女子が早い．一方，性欲は中学生の男女ではあまり変らないが，高校生は男子が多くなっていた．これは先に述べたことや年齢の増加に伴うテストステロンの血中濃度増加[13]や性の情報・経験がテストステロンの水準を高める[14]ということを考えれば高校生の性的欲望が増加しているのは当然のことであろう．

2．個人志向性・社会志向性の特徴

伊藤の発達ゾーン[15]に男子の得点を合わせると，高校男子はゾーン内に位置するが，中学男子は発達ゾーンから外れ，社会志向性得点に比し個人志向性得点が高い．また，下位項目では個人志向性の同一性拡散に関る「何をやりたいか」，社会志向性の社会貢献に関する「役立つ人間，尊敬される人間」は中学男子が高く，調和に関する「周りとの調和」と規範に関する「恥じないように」は高校男子が高い．このことから，

中学男子は，自分がしたいことは人の迷惑でもやりとおし相手にされないと自分の世界に閉じこもるというようにエゴイズムで孤高的な状態にあることがわかった．高校男子は，「心に正直，自分の信念」という自己主張が両親より低く，「＃自分の道，＃何をやりたいか」という主体性が父より低く，社会的貢献である「尊敬される人間」以外は両親より低い．彼らは，両親より調和や規範の遵守，並びに他者との共存を考えた社会的貢献という点で乏しく，自己満足のために尊敬される人間を願望している感がある．そうなると，他者と共存する中に連帯性が培われなければ，社会との繋がりの中で他者との共感や調和は成立せず，主体的な自己の確立においても正当性や協調性が含まれていないことになり，彼らが殺伐とした社会に適応していくのは困難になると考える．

女子の得点を伊藤の発達ゾーン[15]に合わせると，中学・高校女子共ゾーン内に位置していたが，中学女子の両志向性は低かった．下位項目でみると，個人志向性では自己主張に関する「心に正直，自分の信念，正しいことを主張」と同一性の反転に関する「自分で決定」，社会志向性では調和に関する「人に誠実，周りとの調和」は，中学女子より高校女子は高くなっていた．このことから中学女子は，高校女子より平衡的な調和をとる意識は少なく，未分化な一体感から分離して個の追及への表れである自己の存在や独自性の低さが窺え，主体性に乏しい様相が感じられ，未熟で意欲枯渇の状態が窺えた．

高校女子は主体性である「生きるべき道」は両親より低く，自己主張である「自分の信念，正しいことを主張」や主体性である「自分で決定」は父親より低く，自己主張である「自分が満足」，社会的貢献である「尊敬される人間」は両親より高く，自己主張である「自分の個性」は母より高いことを考えると，母親より個性は主張できても主体性に乏しく，調和や規範の遵守ならびに他者との共存を考えた社会的貢献という点では乏しいながらも，尊敬される人間を願望している．また，父親より低い自尊感情のために主体性に乏しい自己主張である．この点を考えると，高校女子が他者と共存する中で，他者との調和を考えて社会適応しようとしても，不調和を招きやすい．仮に不調和を来すと，自尊感情に現実的な基盤がなく自信がもてない為に，傷つきやすくなったり，低い自尊感情で自分を維持しても内面では無理を重ねることになり，対人関係は硬直し，防衛的になって不安が生じ[16]，社会的適応は困難になる恐れがある．

父親の個人志向性では，自己主張に関する「自分が満足，自分の信念，正しいことを主張，自分の個性」が母より高く，社会志向性では社会規範に関する「恥じないように」は母より低かったことから，父親は母親より自尊感情が高く，母親と変わりがない社会のルールの遵守，社会的貢献，他者との共存を考えており，他者から見れば多少恥じる行為にみえても主体性を持ってたくましく生きようとしている様相が窺える．母親は父親より低い自尊感情で自我拡張的に他者との調和・共存ならびに社会的貢献を考え社会規範を遵守する様子が窺える．つまり，父親は父性原理，母親は母性原理[17]を有している．

3. 高校生と両親の関係

両親の社会志向性得点は，子どもより得点が高い人が多いが，個人志向性得点は父親では子どもより高い人が7割強いたが，母親では5割弱であった．これは女子の個人志向性は，成人期にも発達がみられ，男子とは時期とその速度に差を認めることが，その要因としてあるからだと思われる[10]．

個人志向性は，融通性や活動性という行動型特性との結びつきが強く，自尊感情を高めるといわれ，青年期の自我同一性獲得の基盤になり，両志向性の共存が独自の個性を尊重しつつ，相異なる性格特性を身につけるための基盤となる[15]．高校生は両志向性が正相関し，個人志向性が上位な高校生は，同性の親の個人志向性と関連があった．このことはこの時期，親子の関係が疎遠になりがちとなるが，父親は息子の同一性獲得の基盤，母親は娘の同一性獲得の基盤になりうることを示唆していると考える．つまり，男子は自己確立を前提として他者との関係を築いていくために，女子は他者とのつながりの上に自己をつくりあげていくために，父や母との関わりは重要と考える．

4. 性別同一性の自覚と志向性の関係

性的成熟を伴う身体の自己と性別同一性の自覚では以下のことが判明している．男子は，身体に満足することが社会的通念としての2つの男性性の自覚に結びつくが，性的欲求は結びつかない．女子は，身体に満足することが女性的な女性性に結びつく[5]だけであるが，性的欲求は2つの女性性と結びつく．それに，女子の身体の自己の特徴は，第二次性徴の出現を認知して生理的に性的欲求が高まるのを受け容れるが，身体満足は性成熟否定の影響があり矛盾を抱え，葛藤が生じやすい状態にあった．

男女とも両志向性が相互に関連し，中学生の両志向性は2つの男（女）性性，高校生の社会志向性は2つの男（女）性性と関係し，高校生の個人志向性は，男子では男性的な男性性，女子では母性的な女性性と関

係したことから，個人志向性や社会志向性の発達が，性別同一性の自覚と関係していることが明らかになった．このことから中学男子がエゴイズムで孤高的であったことや，中学女子が未熟で意欲枯渇の状態が窺えたことを踏まえると，性ホルモンの影響を受け性的欲求が増加する身体の自己に対しては，人格的な成熟を伴わせる必要があると考える．

自尊感情を高める個人志向性は，女子の成人期にも発達がみられること，社会志向性は，性格特性の中庸化を促すので，自他共存という人生後半に向けての課題解決に必要であり，社会適応には重要なものである．中学生では，両方の男（女）性性の上位群は，両志向性も上位群が多く，両方の男（女）性性の下位群は，両志向性も下位群が多かった．このことから，中学生は性別同一性の自覚が高くなれば，両志向性が高まる可能性が考えられる．高校生の志向性は中学生のような関係はないが，両親の志向性と比較すると，殺伐とした社会に適応していくのには困難が考えられた．高校生においても社会志向性が２つの男（女）性性と関連があったことを考えれば，性別同一性の自覚を高めることは，２つの志向性の共存的高まりにつながる可能性が示唆された．

Ⅳ．結　論

性別同一性の自覚と個人志向性・社会志向性との関係，高校生とその親の個人志向性と社会志向性の関係を明らかにした結果，

1．中学生男子の志向性は，エゴイズムで孤高的な状態が窺え，中学女子の志向性は未熟で意欲枯渇の状態が窺えた．
2．高校男子の個人志向性は父より，社会志向性は両親より，低かった．高校女子の両志向性は両親より低く，社会に適応していくには困難さが考えられた．
3．高校生の個人志向性の上位群は，同性の親の個人志向性と正相関し，同一性獲得の基盤になりうることが示唆された．
4．中学生・高校生の男女の両志向性は，正相関し，志向性の共存的高まりが感じられた．
5．中学生の両志向性や高校生の社会志向性は，父（母）性的，或は男（女）性的な男（女）性性と，高校生の個人志向性は，男子が男性的な男性性，女子は母性的な女性性と正相関していた．
6．中学生は，両方の男（女）性性の上位群は両志向性も上位群が多く，両方の男（女）性性の下位群は両志向性も下位群が多かった．

以上より，性別同一性の自覚と両志向性が関連することから，性別同一性の自覚を促すことは，志向性の共存的高まりや自我同一性を獲得する基盤になりうる．さらに，社会に適応するための同一性獲得の基盤には，同性である父や母との関わりが重要になると考える．

謝　辞

研究をまとめるにあたり，終始温かくご指導を頂いた古銭良一郎先生，小林幹児先生，また，調査にご協力を頂いた中学校の先生，並びに調査の被験者として快くご協力いただいた中学生，高校生とその御両親の皆様に心より感謝申し上げます．

文　献

1）鑪幹八郎：「もう一人の自分」とは，現代のエスプリ，307，83－95，至文堂，1993
2）小比木啓吾・及川卓：性別同一障害，現代精神医学大系 8　人格異常・性的異常，233－273，中山書店，東京，1981
3）藤永保：思想と人格，筑摩書房，東京，1991
4）伊藤美奈子：個人志向性・社会志向性尺度の作成及び信頼性妥当性の検討，心理学研究，64（2），115－122，1993
5）村松十和：思春期の性的成熟とジェンダー意識―身体発育の自己受容を媒介として―，岐阜医療技術短期大学紀要，18，9－30，2002
6）伊藤美奈子：性格特性の一面性と個人志向性・社会志向性との関連について，心理学研究，65（1），18－24，1994
7）福本環，森永康子：男女大学生の避妊行動に関する研究―愛情を感じる相手との最も最近の性交渉において―，母性衛生，46（1），143－153，2005
8）松岡知子，宮中文子他：思春期男女の「思いやりの気持ち」に関する因子について，母性衛生，36（1），181－187，1995
9）山口素子：男性性・女性性の 2 側面についての検討Ⅱ―自己期待と他者期待―，心理学研究，59（6），350－356，1989
10）伊藤美奈子：個人志向性・社会志向性に関する発達的研究，教育心理研究，41（3），293－301，1993
11）伊藤美奈子：性格特性の一面性と個人志向性・社会志向性との関連について，心理学研究，65（1），18－24，1994
12）公平昭夫・大島博幸，思春期の発来機序―男性，周産期医学，東京医学社，12（12），153－156，1985
13）Sizonenko, F. C.: Endocrinology in Preadolescents. I. Hormonal changes During Normal Puberty American Journal of Diseases of Children. 132; 704－712, 1978
14）Wilson, G. and Nias, D.: Love's Myseies: The Psycholgy of Sexual attaction. London, OpenBooks Publishing ltd. 1976.

／岩脇三良・宮本蒼子訳，愛のミステリー―愛と性の心理学―，123－141，思索社，東京，1988
15）伊藤美奈子：個人志向性・社会志向性から見た人格形成に関する一研究，85－109，北大路書房，京都，1997
16）梶田叡一：窓　自尊心，現代エスプリ，307：191－192，至文堂，1993
17）河合隼雄：河合隼雄全対話　父性原理と母性原理，140－241，第三文明社，千葉，1989

要　旨

本研究の目的は，思春期の若者の性別同一性の自覚と個人志向性・社会志向性との関係，その若者とその親の個人志向性と社会志向性との関係をどのような関係にあるのか明らかにし，彼らの性に関する指導に必要な基礎的知見を得ることである．対象は，同意が得られた中学生（男子 107 人，女子 126 人），高校生（男子 74 人，女子 103 人）とその両親（父 86 人，母 93 人）で，方法は自記式質問紙法を用いた．

【結果・考察】①中学生男子の志向性は，エゴイズムで孤高的な状態が窺え，中学女子の志向性は未熟で意欲枯渇の状態が窺えた．②中学生・高校生の男女の両志向性は，正相関し，志向性の共存的高まりが感じられた．③高校生の個人志向性の上位群は，同性の親の個人志向性と正相関し，同一性獲得の基盤になりうることが示唆された．④中学生や高校生の志向性は，性別同一性の自覚と正相関し，中学生の性別同一性の自覚の上位群は両志向性も上位群が多く，性同一性の自覚の下位群は両志向性も下位群が多かった．

このことから，性別同一性の自覚と両志向性は関連するため，性別同一性の自覚を促すことは，志向性の共存的高まりや自我同一性を獲得する基盤になると考える．さらに，社会に適応するための同一性の獲得の基盤には，同性である父や母との関わりが重要になると考える．

キーワード：個人志向性，社会志向性，性別同一性の自覚，思春期，親子関係